



金	沢	医	科	大	学	病	院	
地	域	医	療	連	携	だ	よ	り

No. 13

2014-10 発行

顎（あご）関節脱臼について

歯科口腔科（顎口腔外科） 瀬上 夏樹教授

人間のからだに存在する約 200 の関節構造のうち、一説では最も脱臼しやすいのは肩関節（1万人に1人の頻度）といわれています。一方で顎関節脱臼は恐らく肩関節脱臼よりも多いものと考えられています。

【顎関節脱臼とは？】

あくびや歯科治療などの際に大きく口を開けたりすると正常な可動域を越えて関節が外れ、口が閉じられなくなる状態を指します。摂食障害や誤嚥性肺炎の原因とされており、最近では超高齢社会の到来とともに認知症を併せもつ60～80代の患者さんが多くみられます。あごが外れても手で元の位置に戻せる「習慣性」と、それが困難な「陳旧性」があります。通常、一時期より頻回の習慣性症状を認め、さらに整復されない場合は陳旧性に陥ることが多いです。

【治療法について】

急性脱臼には徒手整復（ヒポクラテス法）が行われますが、習慣性、陳旧性脱臼には手術が必要となります。最近、流行っている自己血注入療法は根本的な問題解決とはなりません。手術法には、関節運動円滑化法、障害物形成法、関節捕縛術などがありケースバイケースで適応されます。

当科では、20年前より積極的に手術療法を取り入れております。現在では県外からも受診される方が増加し、100例近くの患者さんに施行しており、国内外問わず最も多くの手術執刀を誇っています。

この間、当初は内視鏡的に関節結節削除を行う関節円滑化法を、その後、関節開放しての円滑化法を適応しましたが、1割程度の再発例がみられることから、ごく最近ではチタンスクリューとステンレスワイヤによる関節捕縛法を取入れて再発はなくなりました。特に認知症合併例では、開口した状態で流涎から致命的な肺炎に至る場合が多く、ご家族にとってはみるに忍びない状況が推測できます。

【今後について】

新しく独自に開発した手術法では、患者さんが高齢で別の病気にかかっている場合は、肺炎や心不全につながる全身麻酔を避けて局所麻酔で行うことも可能で、手術時間は1時間～1時間半で行えるようになりました。一方で、僅かですが致命的なリスク（死亡例）も存在するため慎重な判断が要求されます。認知症であごが外れても周囲に訴えることができないケースが年々増えており、人生の終末期を如何に快適に過ごして頂けるかを問いながら診療をすすめております。

（問い合わせ先）

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

regional@kanazawa-med.ac.jp

Kanazawa Medical University Hospital